

## CLOSE UP!



## 周産母子センター 母親と赤ちゃん、双方のサポートを総合的に。

### ～周産母子センターの発足～

平成10年、NICU(新生児集中治療室)6床からスタートした「周産母子センター」。平成16年12月には、国が定める基準をクリアし、「総合周産母子医療センター」として承認されました。国立大学としては第一号の開設で、MFICU(母体胎児集中治療室)3床、母体後方病床8床、NICU(新生児集中治療室)6床、GCU(新生児回復期治療室)12床の施設、新生児3人につき看護師1名が担当し、NICUにおいては独自に医師と看護師を常任する体制が整えられています。

### ●つまりは、「大学病院の産科」です。

大学病院であるメリットと、総合周産母子医療センターとしての基準を満たしていることから、「出産」にまつわる総合的で最高水準の医療体制を目指して取り組んでいます。具体的には、母体や新生児の救急を24時間受け付けており、小児科・小児外科・小児内視鏡外科・心臓血管外科・眼科など、院内の各科と連携して、母体と新生児の両方に対応できる唯一の体制を整えています。

### ●周産母子センターは通常の産科と何が違うの？

出産に伴い、なんらかのリスクがあるとされる妊産婦や胎児異常などの危険がある場合の診療や出産、産後の治療を行うのが中心です。そのためこちらを利用するのは、早産児、新生児外科疾患、心疾患、妊娠合併症、重症妊娠高血圧症候群、切迫早産など、母体や新生児に高いリスクがある場合が約7割を占めています。もちろん、通常の妊娠出産でも利用可能です。また、徳島県における周産期医療ネットワーク基幹としての役割も持っており、地域の各診療所との連携や搬送受け入れ、周産期医療従事者への研修も行っています。

### ●出産には個人差があります。

スムーズに妊娠出産できる場合もあれば、母体に危険が現れたり、新生児に何らかの異常が見られたりと、妊娠出産ならではの症状なども心配されることがあります。妊娠出産におけるそれらの症状は、大きく個人差のあるものなので、まずは近くの、もしくはかかりつけの診療所・医院で相談をし、自らの体調や症状の予見に合わせて、どこで出産し、どこで治療するかを事前に検討しておくのはとても大切なことです。



徳島大学病院  
周産母子センター  
副センター長  
**前田和寿** まえだ かずひさ  
■問い合わせ  
周産母子センター  
Tel.088-633-9331